



防災は 進化した。



エイビット防災IoT



デバイスからクラウドでの

ABIT
disaster
reduction
solution

エイビット防災IoTは各センサーからの情報を各通信回線を通して収集。クラウドサービスでデータの蓄積、見える化などの処理を行い、インターネット経由でブラウザやメールなどから情報を確認できるサービスです。



エイビットの水位計は
多数の自治体様にご採用頂き、

5県8市 約**1000**箇所※
稼働しています。

※2023年4月現在

・エイビット防災IoT3つの特徴

1 簡単設置

電源を繋げたり配線を引いたりする必要は無く本体を取り付けるだけの簡単設置のため、手間なくスムーズにご導入頂けます。

2 低消費電力

水位や地面に変化が見られない時は自動で省電力モードに移行。本体内蔵の電池で最大5年稼働します。

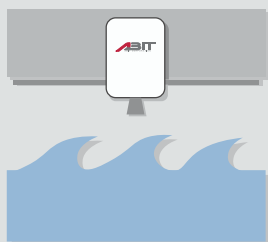
3 複数の通信方式

複数の通信方式を採用する事により携帯電話網などの公衆回線が届きにくい場所でも問題なく使用する事ができます。

・エイビット防災IoTで検知できる3つの危険

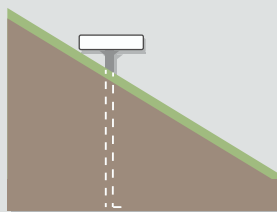
1 水位上昇

河川等に設置する事で水位の上昇を検知。氾濫、洪水等の危険を事前に知らせます。



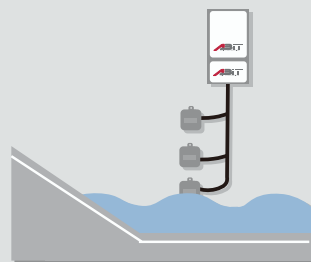
2 土砂崩れ

斜面に差し込む事で地面の微細な傾きを検知。土砂崩れ等の危険を事前に知らせます。



3 冠水

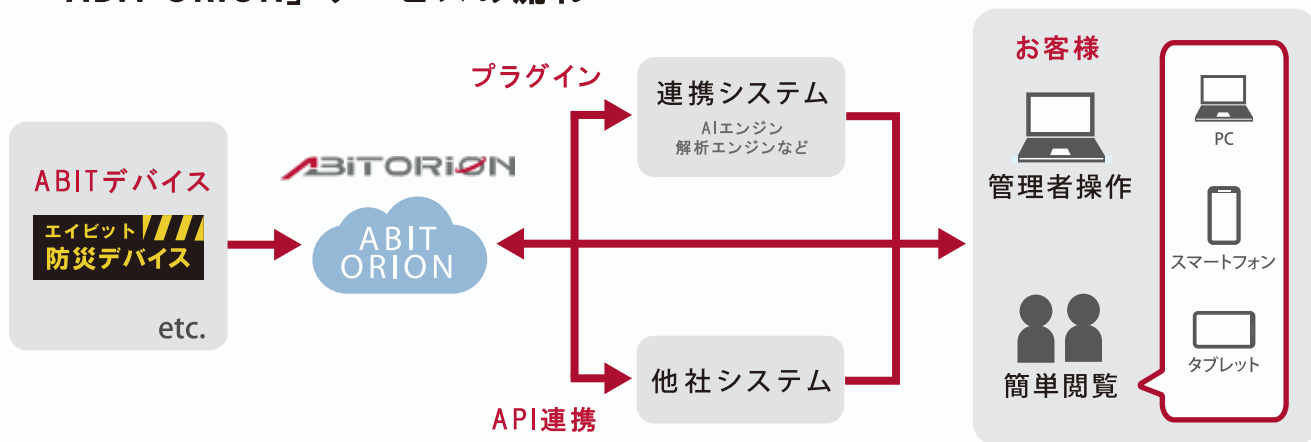
アンダーパスやビルの地下などに設置する事で水位の上昇を検知。冠水の危険を事前に知らせます。



データ管理までワンストップでご提供

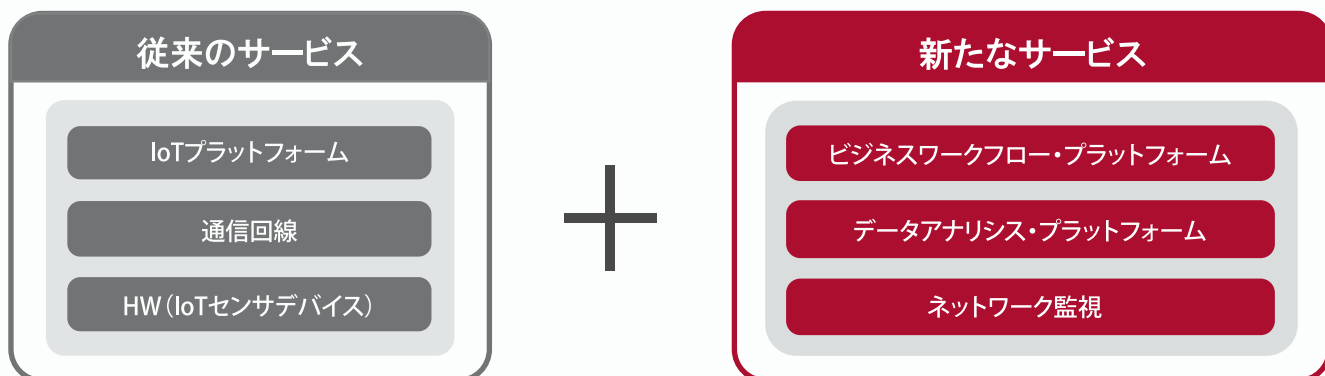


・「ABIT ORION」サービスの流れ



・進化するサービス

従来のサービスに加え下記のサービスを追加。更にお客様に寄り添った形へと進化します。

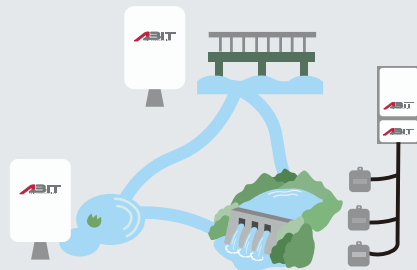


エイビット防災IoT ユースケース

1

複数エリアの監視を一つのシステムで

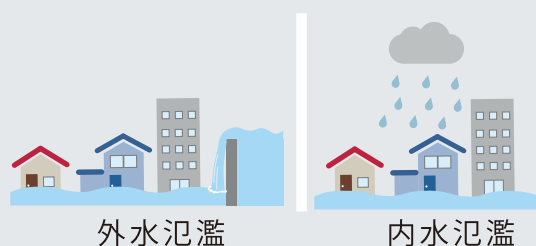
エイビット防災IoTでは、これまで個別に管理されていたそれぞれのデバイスを複数のエリアにまたがって一つのシステムで運用する事が可能です。これにより、各デバイスのデータを相互に利用する事ができ、AIなどによる予測解析にも役立てる事ができます。



2

いかなる氾濫パターンにも対応

氾濫には主に2種類があり、短時間強雨などが原因で雨水の排水が追いつかず起こる「内水氾濫」と、河川等の水位が高くなりすぎた事により水が溢れ出して起こる「外水氾濫」があります。エイビット防災IoTではその両方に対応。予測できない水害から街を守ります。



3

公衆回線が繋がらない場所での活用

エイビット防災IoTでは複数の通信回線を採用する事により、ダム工事現場などの公衆回線が繋がりにくい場所でも正常に通信を行う事ができます。これにより作業員の安全を守る事ができるほか、下流の住民へ早期に危険を伝える事も可能になります。

